



## 旅の計画の立て方

「どうやって旅の計画を立てているの？」と聞かれることがあります。今回の北海道旅行では、まず日程を決めて、それからアプローチ方法を考えました。北海道へのアプローチは飛行機かフェリー、新幹線などがありますが、日本航空のセールで「千歳まで7,700円」というのを見つけて、予約。



次に道内の移動についてですが、青春18きっぷ(鈍行列車1日乗り放題)を利用することにしました。時刻表とにらめっこをして、乗りたい路線などを決定。宿泊地は1泊目を「滝川」、2泊目を「帯広」と決めてホテルサイトを比較して最安値で予約。最後に観光スポットや食べたい郷土料理など。食べログや旅行サイトなどを細かくチェックしていたので、2日目の夜には十勝の豚丼を食べたり、3日目は「夕張」を観光し炭鉱の遺構を見学、千歳市の魚屋で新鮮なツブ貝やホッキ貝を購入し、土産にすることができました。「詳細に計画を立てて、その通りに実行。」というのが自分の旅のスタイルです。

「Eco列車でいこう！」～第172回～ 最果てへ。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を照会するコーナーです！)



1月7日(日)朝5時。北海道滝川市にあるホテルをチェックアウトする。早朝なのにホールから光が漏れていて、美容師さんが準備をしている。「ああ、今日はこの街の成人式なのか。」と思い、心が温かくなった。フードを深くかぶり、氷点下の街の雰囲気を楽しみつつ、駅へ向かった。

「東鹿越(ひがししかごえ)」行のディーゼルカーがブルブルンとエンジンを唸らせて待っている。北海道仕様の二重窓の車両だから温かい。炭鉱の町「芦別(あしべつ)」を過ぎると、「富良野」が近づく。さすがに一大観光地。街の雰囲気も明るい。湖畔の駅「東鹿越」からは代行バスで「新得(しんとく)」へ。この「富良野～新得」間は災害で不通になり、今年3月での廃止が決まっている。

朝の連続テレビ小説「なつぞら」のロケ地となった新得町から「十勝地方」となる。太平洋側に入ったからか、雲が切れて青空が広がる。広大な牧草地を白く染める雪の照り返しがまぶしい。

十勝地方の中心地「帯広」で乗り換えてさらに東へ。12時54分、「釧路」に到着した。

ここからはA案、B案どちらにするか。近くの「和商市場」では、ごはんと刺身を購入して、自分好みのどんぶりにする「勝手丼」が有名だ。これを昼ごはんにして、今晚の宿泊地「帯広」に戻れば、1トンもある馬がソリを引く「ばんえい競馬」を観戦し、帯広の街で一献もできる。とても魅力的なプラン(A案)だ。

すぐ迷ったが最東端「根室」を目指すこと(B案)にした。この先は「花咲線」と呼ばれ、日本有数の絶景路線だ。列車は別寒辺牛(べかんべうし)湿原の中や、落石岬の断崖を走る。エゾシカが鉄分補給のために線路を舐めており、その都度警笛を鳴らして追い払う。キタキツネやオオワシの姿も見える。

日本列島の東端なので日の入りは早い。夕日を臨みながら15:57「根室」着。わずかな折り返し時間に、待合室で地酒を買った。

銘柄は「北の勝」。東の果ての酒はさっぱりとしていて旨かった。



根室に近い浜中町はモンキーパンチ生誕の地



ローカル線で飲む地酒は旨い



エゾシカは何度も現れた